



る。現在も、
グループの加
藤鉄工がエレ
ベーターの据
付工事を手掛け、カトービ
ルサービスが
エレベーターとエスカレーターの保守点
検を行ってい
る。

同社の歴史

を振り返る
と、中津川の
産業の変革と
ともに歩んで
きたことがよ
くわかる。

日本のものづくり発展へ コア技術をさらに磨く



4代目 加藤 景司さん

つてきます。

これまで123年続いてこられたのは、創業者をはじめ、先人のおかげ。これを忘れたらいけないと思っています。

これまで123年続いてこられたのは、創業者をはじめ、先人のおかげ。これを忘れたらいけないと思っています。

温故知新、不易流行の精神を大切に、伝統を守りながら、いかに新しい時代に適応していくかがこれらの課題となる。

今後、2000年、3000年と会社を存続させていくため、人づくりも重要です。「駒場村塾」など、社内教育の仕組みを通じて、社員の自己啓発や学ぶ姿勢につなげていきました。

農鍛冶から金属加工に発展



社内ではベテラン従業員
が活躍。若手への技術伝
承が行われている

2011年(平成23年)12月13日 火曜日 (18)

月曜 後輩へ伝えたい
火曜 老舗探訪
水曜 00:00 ニューラボ
木曜 メディカル
金曜 私の本棚
土曜 元気メガ盛り大須+a

ピッチをチャンスに変える
老舗探訪
東海企業ウォッチング

□□□ 87

絞りプレス加工をコア技術に多種多様な金属加工を手掛ける加藤製作所。もともと農鍛冶からスタートし、中津川の産業の発展とともに業容を拡大。現在、取引先は自動車関連をはじめ、家電、

難削材の絞りプレスが武器 航空機部品受注につながる

同社は1888年、鍛冶屋の「かじ幸」として創業した。その後、中央線が中津川まで開通し、木曽川水系への水力発電所の建設などで周辺の産業立地が進むのに伴い、近代的な金属加工業へと発展する。特に三菱電機の中津川への進出は、ものづくりだけではなく、中部電力や関西電力の指定請負工場となり、水力発電所の建設工事からオーバーホールまで展開していた時期もあ

一八八八年創業 中津川市
加藤製作所

環境、住宅、航空機まで幅広い業種に広がる。歴史、伝統を重んじる姿勢を守りながら、国内でのものづくりにこだわりを見せていている。

技術の進歩につながり、取引先拡大に大きく寄与した。

現在はステンレス、アルミなど難削材の絞りプレス加工を得意とする。

当主が白装束姿となり、昔ながらの鍛冶屋の技法で、ハンマーで赤くなつた鉄を打つ。これは創業時から休むことなく行われ、現在同社には123本のご神刀が存在する。

歴史と伝統を重んじる同社では毎年1月2日早朝、社内の神社に奉納するご神刀を作製するのが恒例行事となっている。当主が白装束姿となり、社内の神社に奉納する年も頑張ろうという気持ちになる。ハンマーを振り下ろすたびに、その思ふところから見えてくる。加藤社長は、

「新年を無事に迎え、今年も頑張ろうという気持ちになる。ハンマーを振り下ろすたびに、その思いがついたところから見えてくる」と語る。加藤社長は、

「新年を無事に迎え、今年も頑張ろうという気持ちになる。ハンマーを振り下ろすたびに、その思いがついたところから見えてくる」と語る。加藤社長は、

歴史重んじ毎年新刀奉納 高齢者雇用で技術伝承も

長は「働く

ことに対する対応は皆ベテラン。分野の中でも高齢者が活きる場所はある。10年取り組んでみて、正社員の管理能力向上や安全面への配慮など多方面で効果が出てきている」という。また、経験者が若手従業員に指導することによって、技術伝承に繋がっている。

このように、高齢者雇用で技術伝承も重要な役割を果たしている。加藤社長は、「高齢者雇用で技術伝承も重要な役割を果たしている」と述べています。